

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171401748		
法人名	有限会社 ベストケアサービス		
事業所名	グループホーム香雪園		
所在地	〒042-0955 函館市高丘町4 1 番 1 2号 (電 話) 0138-36-5500		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年3月3日	評価確定日	平成21年5月13日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、小高い住宅街に建ち、近くには函館大学、見晴公園(旧岩船氏庭園)がある。公園は市民の憩いの場で、利用者にとっても森林浴を楽しむ散歩コースとなっている。近くに系列法人が運営している事業所があり、運営推進会議、貸農園での畑作りなどを合同で行っている。室内の間取りは広々とし、特に居間の窓は大きく開放感があり、函館山がいつも眺められる作りとなっている。階段には小学生からプレゼントされた手作りカレンダーを展示しており、地域との交流が感じられる。職員は常に理念である「笑顔」で利用者に接し、明るい事業所作りに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での課題について、改善に向け職員で話し合い、重度化、看取りについての指針が掲げられた。運営推進会議の記載方法や「ホームだより」の定期発行について、今後も継続した改善に期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で話し合い、評価の意義を理解し取り組みを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>系列法人が運営している事業所と合同で、2ヶ月に一度運営推進会議を開催しており、事業所の状況等を報告し、協議された意見などを運営に活かした取り組みに努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見、苦情などを外部へ表す方法として、意見箱を玄関に設置している。家族会も設立されており、家族の訪問時には日ごろの様子を伝えている。また、緊急時は電話を用い、常に家族との関係を大切にすることを心掛け、ケアに取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、町内会行事の夏まつり等に参加したり、事業所の行事案内を町内会、学校等に配布するなどし、地域との交流に努めている。</p>

## 【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	15.5人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	27,000~36,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1ヶ月当たり 42,000 円		

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男 4 名	女 14 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名
要介護3	3 名	要介護4	6 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.9 歳	最低 61 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関	函館渡辺病院、田中歯科、たけだクリニック
--------	----------------------

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設にあたり、職員で「愛と笑顔」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの時に、理念を常に意識し、職員全員で取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事の夏祭り等に参加している。事業所の行事案内を町内会、学校、幼稚園へ配布し、参加を募っており、地域との幅広い交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を、職員全員で話し合い理解し、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	系列法人が運営している事業所と合同で、2ヶ月に一度運営推進会議を行い、事業所の状況や、取り組みなどを報告している。現在は災害対策を地域に協力要請中であり、会議での意見をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。	○	運営推進会議の記録は作っているが、今後は会議録のより詳細な記載にも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは訪問、来訪、電話などで情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等には、不定期だが、「ホームだより」を発行し、行事等の様子を伝えている。また、家族等の訪問時には利用者の生活状況を報告し、緊急時は電話で連絡をしている。なお、金銭管理報告は3ヶ月に一度コピーを送付し、家族等へ報告を行っている。	○	「ホームだより」を定期的に発行しているが、今後は利用者の担当職員による日常生活報告を手紙で添えるなど、それぞれの家族等への個別報告の取り組みを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族会も設立している。意見や苦情を表せる機会をつくり、苦情等があった場合は、管理者、職員等で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑える努力として、職員のほとんどを常勤にしている。離職等の時は利用者には不安感を与えない様に、現職員でその都度体制を整え利用者への配慮を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成に積極的に取り組んでおり、外部より年2回講師を招き、二日間にあたる研修を実施し、職員全員が参加できる様に行っている。外部研修の参加者は会議で、その内容を報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道南地区グループホーム協議会の、研修会、勉強会に参加し、地区ブロックでは自主学習会等で交流を深めるなど、同業者との交流を通じサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを受けられる様に、事前見学、訪問面談を行い、本人、家族等の意向を十分に考慮し、サービス利用を開始するようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の味付けや盛り付け、園芸等を利用者から学び、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部を活用し、日々の会話や家族等の情報等より、一人ひとりの希望や思いを把握し本人本位の支援に配慮している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日々の生活で気付いたことを、職員全員で話し合い、介護支援専門員の指導のもと、担当者が中心となり、本人、家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に一度の見直しを行い、状況の変化に応じてその都度、柔軟に作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、理容の送迎、買い物、レストラン、友人宅等、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族等の希望に沿った医療選択の支援を行っている。なじみのかかりつけ医への通院は職員が対応しているほか、協力医の往診を月2回受けており、適切な医療が受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、看取りに関する指針を掲げ、家族等と早い段階から話し合いを行っている。終末期段階方針については、主治医から説明を受け、職員全員で共有し、実践中である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの個別性を考慮し、言葉かけや対応に気を付け、常にゆったり生活できる様な配慮を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを大切にしており、本人の趣向に合わせて、その日の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け、盛り付け、食器洗い、後片付け、タオルたたみ等、利用者の力に応じた支援を職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴も可能で、朝風呂も実施している。職員も一緒に入浴し、利用者の入浴を支えている。夜間入浴希望を想定した入浴も、検討中である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として調理の準備、後片付けを行い、また、園芸好きな人にとって貸農園での野菜作り、花作りは楽しみごととなっているなど、生活に張り合いが持てるような支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏には、見晴公園(旧岩船氏庭園)へ散歩に出かけたり、農園へ出かけたりと、一人ひとりの希望に沿った外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ、防犯のために施錠を行っている。日中は外扉にはドアチャイム、内扉にはセンサーを安全確認のために取り付けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を、年二回消防の協力で実施している。地域からの協力を得る災害対策は、検討中である。	○	夜間想定訓練を計画し、連絡方法、避難順路、誘導方法など再確認し、連絡方法を電話前に掲示するなど、緊急時の対応を強化する取り組みを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日1500ccの摂取を目安にしており、水分量の記録をしている。献立は職員によるものだが、栄養バランスを考慮し、量、塩分、刻み食など、その人にあうように配慮したメニューとなっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るくゆったりと暮らせる広い間取りで、特に台所は、利用者と一緒に作業ができる広いスペースの作りで、居間には季節の飾り物が置かれ、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス等が自室に置かれ、本人が落ち着く部屋の作りとなっている。以前の生活を再現している部屋もあり、安心して生活を継続できるように配慮をしている。		

※  は、重点項目。